

「ごちゃまぜ」 あらゆる障害のない社会へ

GOCHAMAZE
times2022
SPRING
vol. 17

TAKE FREE

＼みんなおいしくて、みんないい／

みんなが楽しい

食事会

ハラル
対応？ヴィーガン
チーズ？グルテン
フリー？

オーガニック？

あなたのまちの
ソーシャルスクエアSOCIAL
SQUARE

いわき店 福島県いわき市

就労移行支援
就労定着支援
自立訓練 (生活訓練)福島県いわき市内郷内町水之出 17
ソーシャルスクエアビル 1F
TEL 080-3525-9426
MAIL ss_iwaki@sdws.jp(旧：スポーツ店)
上荒川店 福島県いわき市就労移行支援
自立訓練 (生活訓練)福島県いわき市平上荒川字桜町 1-1
あらたな内
TEL 070-3349-6785
MAIL ss_sports_iwaki@sdws.jp

郡山店 福島県郡山市

就労移行支援

2021年
10月
OPEN!福島県郡山市鶴見坦 1-9-25
クレール・アヴェニュー A 号
TEL 070-1147-6039
MAIL ss_koriyama@sdws.jp

西宮店 兵庫県西宮市

就労移行支援
就労定着支援
自立訓練 (生活訓練)兵庫県西宮市中前田町 1-27
ラビットビル 1F・3F
TEL 090-8377-4839
MAIL ss_nishinomiya@sdws.jp(旧：熊本店)
水前寺店 熊本県熊本市就労移行支援
自立訓練 (生活訓練)
相談支援 (計画相談)熊本県熊本市中央区水前寺公園 3-4
土山天祐堂ビル 2F
TEL 070-7587-9202
MAIL ss_kumamoto@sdws.jp

上熊本店 熊本県熊本市

就労移行支援

2022年
2月
OPEN!熊本県熊本市西区
上熊本 3 丁目 1-32
TEL 090-2167-2256
MAIL ss_kamikumamoto@sdws.jp講師・ご寄付・コラボ
募集しています！詳しくは下記 QRコードより
法人 WEB サイトをご参照ください!!

＼ 障害やご病気で、生きづらさや働きづらさのある方のための支援機関です／

スクエアご利用メンバー大募集中！

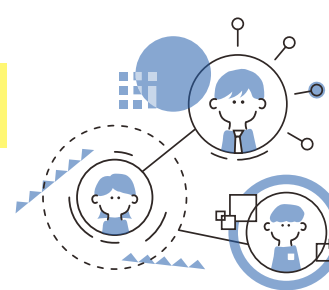
#うつ #統合失調症 #発達障害 #精神障害 #ADHD #引きこもり #就労支援
#難病 #自閉症 #高次脳機能障害 #双極性障害 #復職 #ニート #職場定着

詳しくは QRコードよりサービス・店舗紹介・お問合せをご参照ください↑

ソーシャルスクエア 検索



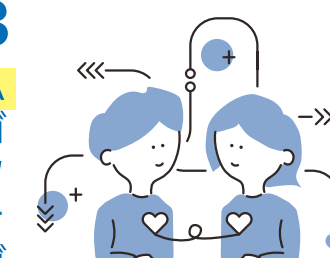
ソーシャルスクエアってこんなところ！

1
社会とツナガル

SOCIALSQUARE は英語で「社会とつながる広場」という意味。社会との接点をつくりたい方には居場所として、関わりを少しずつ増やしていきたい方には地域社会との交流の場として、あなたの一歩を応援します。

2
学びにツナガル

ずっと興味のあった資格取得を目指すもよし、SOCIALSQUARE の提供するプログラムに参加するもよし。覚えたと感じたことを他者に共有できる環境があるからこそ、これまで得られなかった気づきや学びがあります。

3
心がツナガル

同じ場所・同じ時間を過ごしたり、自分の困りごとを話したり。少しずつお互いのことを知り合う中で、きっとあなたにとって心地よい関係性が生まれるはず。なんでも相談できる場所へ。



みんなが楽しい食事会ってなに??



この世界は、
ごちやまぜだ

世界は、たった1人の自分を除いて、
70億人の他者によってつくられています。
自分とまったく同じ人など、この地球には存在しません。
この社会は「違い」によって成立しているのです。

ところが私たちは、思わず「同じ」であることを求め、
周囲と同じであることに安心感を覚えがち。
社会を成り立たせている「違い」は、次第に表に出しにくいものになり、
多くの生きにくさが、そこから生まれています。

しかし「違い」が、そのまま生きにくさになるわけではありません。
周囲の受け止め方や環境によって、
誰かの生きにくさは変えられるはずです。

社会は、もともとが「違い」だらけ。
ごちやまぜタイムズは、当たり前のことを当たり前にするために、
世の中の「ごちやまぜ」を伝えていきます。

表紙デザイン | 渡辺 香 (わたなべ かおり)

SOCIALSQUARE いわき店
事業推進部 マーケティング・広報・映像ディレクター
福島県いわき市出身。美術大学の助手や広告制作会社の映像プロデューサー／ディレクターを経て2018年にUターン。
ソーシャルデザインワークスでは拠点マネジメントを経て、マーケティング・広報・発信、クリエイティブ分野を担当。

最新記事はWEBのGOCHAMAZetimesで!



<https://gochamaze.jp>

今回の特集やインタビューの全文を公開中!過去のタブロイドのアーカイブはもちろん、ウェブ限定のインタビューや対談など、ここでしか読めない記事も豊富にあります。ぜひ一度ウェブ版もご覧になってみてください。

WHO WE ARE



広報 PR
KAORI WATANABE



編集
RIKEN KOMATSU



編集
TAIKAN FUJIKI



企画
RYOHEI OMORI



企画
KAZUMA HOSHI



編集
MINAMI YAMAZAKI



発行人
TSUYOSHI KITAYAMA



デザイン
NAOKO ETOU



取材
RYUTA SATO



取材
MICHIFUMI OKUTA



取材
MINAMI TAGAWA



取材
MINAMI YAMAZAKI

NPO法人ソーシャルデザインワークス

私たちは「すべての仲間の幸せを追求すると共に諦めない社会を創る」を理念に掲げているNPO法人です。2019年現在、福島県いわき市、福島県郡山市、兵庫県西宮市、熊本県熊本市で障がい福祉サービス事業所を展開しています。障がい福祉サービス事業を軸とし、障がいの有無や性別、国籍、年齢など一切関係なく、様々な属性の方々が自然に交流ができる機会を、ごちやまぜイベントと題し企画運営しています。また、ごちやまぜの発信・広報を行っています。



<https://sdws.jp>

詳しくはwebをご覧ください。

COLUMN コラム

アニマルウェルフェア

「動物福祉」と訳され、家畜が生きていく間に、ストレスをできる限り少なく、行動要求が満たされ、健康的な生活ができる飼育をめざす畜産のあり方。次の5つの自由が定められている。1 空腹と渇きからの自由、2 不快からの自由、3 痛みや傷・病気からの自由、4 正常な行動を発現する自由、5 恐怖や苦悩からの自由。

フェアトレード

コーヒー豆やカカオ、コットン製品など、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す貿易のしくみ。社会的、環境的、経済的基準について定めた基準を満たしている製品に貼付できる「国際フェアトレード認証ラベル」がある。

フードロス (食品ロス)

日本では、生産から製造・加工、卸・流通までの過程や、期限・食べ残しなどで廃棄されてしまう食品のことをフードロス（食品ロス）という。海外で Food Loss は、消費者の目に触れる前の供給過程で発生する「損失」を表し、期限や食べ残しによって廃棄する場合は Food Waste という言葉が使われている。

「ハラル食堂」は、「宗教法人日本イスラム文化センター」のハラル認定を取得した東北初のハラル食堂です。イスラムの教えを理解し、ハラルに合わせた安心の食材を使用、ムスリムの方にはもちろん日本人の舌にも合わせた料理を提供しています。いわきは海外からの労働者・技能実習生・学生も多くいます。インバウンドで湯本にお越しの際は是非ご利用ください。ハラルでお困りの際はお食事以外でも是非ご相談ください。

ハラル食堂

電話番号: 0246-38-5519
住所: 〒972-8321 福島県いわき市常磐湯本町吹谷97-14
HP: <https://www.halal-iwaki.jp/index.html>



comer

電話番号: 096-240-2659
住所: 〒862-0920 熊本県熊本市東区月出8丁目1-41 月出マンション
HP: <https://comer.jimdosite.com/>

食育

川上 翔さん
はにわの森 共同管理人
NPO法人ダイバーシティサッカー協会 理事



1年ほど前から岡山県真庭市旧中和村の「はにわの森」というところに住んでいます。村にはコンビニもなく、自分たちで食べ物をつくるという意識から、5羽のニワトリを譲り受け、飼育し始めました。毎朝の卵は、日々のおかずになりました。冬になると森で雪でとざされるため、12月には絞めて鶏肉としておいしくいただきました。「食べることは生きること」という言葉もありますが、同時に「命を奪うこと」でもあると実感する経験でした。

食スタイルから ごちゃまぜな社会へ

今回物語で登場した新人さんは、親睦を深めるために同期会を企画しました。このような食事を開催する際に気になるのが「食の好み」。読者のみなさんは、食事を企画したとき「〇〇が食べられない」「食にはこういふこだわりがある」などと言われたことはありませんか？もしくは日常生活の中で「ヴィーガン」「ベジタリアン」は聞いたことがあるけど身近にはいない、あまり詳しくは分からないという方はいませんか？新人さんは同期会を企画する中で初めて「ヴィーガン」「グルテンフリー」という言葉を耳にし、お店の店員さんと先輩社員に話を聞きに行くことになりました。

現在、食の選択肢は「ハラル」「コーシヤ」「ヴィーガン」「ベジタリアン」「オーガニック」「グルテンフリー」「自然食品」など多岐にわたります。今回インタビューを通じて、こういった食の選択肢している方々の背景を紐解いてみると、それぞれに「宗教」や「動物愛護」「健康」「環境問題」など様々な思想や社会問題など関連していることがわかりました。更には「食べることは生きること」であり、同時に「命を奪うこと」という「食」の根本的な意味合いを再認識できる機会もありました。そういった人間として共通した目的のある「食」を選択する背景は多岐にわたり、まさに「ごちゃまぜ」な世界になっていることに気づかされました。

新人さんは食の多様性に苦労した点もあったようですが、最終的には同期みんなで楽しむため「テイクアウト」という選択肢を取りました。読者のみなさんもパートナーや友人、会社の同僚と食の選択の話になった時、食べられないものを単にその人のわがままや好みと捉えず、背景や理由を聞いてみてはいかがでしょうか。お互いに引目なく対話や要望を意見交換できてお店や製品の選択肢が増えること、また、そのような会話が当たり前になることで、社会が少しづつより「ごちゃまぜ」になっていくのかもしれないですね。

教えて！ みんなの 食スタイル



ペスカタリアン

佐藤 竜太さん
理学療法士

自然食品のみを扱う食料品店です。12年前に母が癌になり、私自身そこからたくさんのことを調べて行き着いた答えが自然食品でした。自分の子育ての経験を経て、健康であるためには小さい頃からこういう食品をとることが大切だと思えるようになりました。自然食品を伝えていかなければならないのは子供や子育て世代だと感じ、自分と同じ「子育て世代の人」に利用して欲しいという思いでこのお店を開きました。



モクレンの木

電話番号: 024-954-3746
住所: 郡山市深沢1-7-15
HP: https://www.instagram.com/mokurennoki_koriyama/



ビーガン



地産の有機野菜を主役にしたオーガニックカフェです。農家さんから届く泥つきの野生の野菜を余すことなく使うため、発酵の力を借りています。一般に流通する均質で効率的な食品とは真逆で、気候や気温などの環境、時に人の気持ちに添う味が個性です。ヴィーガンやオーガニックは健康意識の高い人のためになりがちですが、食べることに好奇心を広げたり、身体が心地よいと感じることを大切にする時間を提供できたら嬉しいですね。

エシカルライフ

菊池 文恵さん
介護福祉士



数年前に大食文化の現状を知って涙を流した時、牛豚鶏等の命と何が違うのかと自問自答しました。そして当たり前のようにお肉を食べていた自分が嫌になりました。今はお肉や牛乳、卵、革製品等をやめ、エコサート製品を使うなど動物犠牲のないエシカルな暮らしを選択し、自分の心が豊かになっていくのを感じています。1人でも多くの人に動物たちの現状を知ってもらい、人間と変わらぬ命を大切にできる世の中になる事を心から願っています。

みんなで食べたいものを食べられて、楽しい食事会になりましたとさ。

めでたし めでたし



世代を超えた 地域のみんなの「居場所屋さん」

インタビュー「ごちゃまぜな人」第17回

原 弘子さん

「もうお家に帰る時間だよ」「分かってまーす」

夕方4時に小学生に声をかけているのは

「楽菓子屋（だかしや）ひろば」を運営している原さん。

保育の経験から地域に子どもの居場所をつくりたいと、

郡山市で駄菓子屋をスタートさせた。

今や地域との連携や協力、業種や立場を超えた横のつながりを展開しているその駄菓子屋さんはどういった居場所なのか。

きっかけから現在そしてこれからについて優しく熱く語ってもらった。



”楽菓子屋ひろばは2020年1月にオープンしました。変わらない場所でも子どもたちを見守り地域の方が孤立せずに、誰かと繋がるような「居場所」としての駄菓子屋です。

この活動のきっかけは、以前保育の仕事をしていた中で年齢と共に保育観のズレを感じるようになったことです。「もっと子どもたち、ひとりひとりと丁寧にゆったり向き合いたい。」同時に少子化、核家族化、近隣関係の希薄化などとりまく環境が年々大きく変わり人との関わりが減っているように感じてきました。「子どもは兄弟や近所に住む幅広い年齢の子どもと遊び、祖父母をはじめ地域や大人と関わるなど親以外にもさまざまな人と接しながらその関わりを肌で感じる場があるといい。」と。変わらない場所で子どもたちの成長を見守れる場！そして子どもから大人、年配の方、子育て中の方、誰もが気軽に立ち寄れる居場所づくりができたらいなと思いました。居場所づくりをしたいなと思ったときに、「居場所屋さん」ってするわけにもいかなので、その入口を何にするのか考えました。それで「駄菓子屋さん」だったら抵抗のない入口かなと思いました。そこから多世代交流の場、誰もが気軽に入りやすい場となればいいなと、実際に買い物にきてくれるだけじゃなくて、戸を開けて「〇ちゃんとか喧嘩した」とだけ言って帰る子がいたりランドセルを背負ったまま、今日、図工で作ったんだ！」と作品を見せてくれる子もい

ます。居場所といってもそんな大袈裟なかしこまった場でなくて、学校でも家でもなく、地域の誰かさんというわけでもなくガラガラって戸を開けると「場」があるということ。いつ行っても変わらない「場」がある。それがこの楽菓子屋ひろばなんだと思います。

オープンしてすぐにコロナ禍に入りました。ステイホームでどこも閉まって先のない閉塞感の中、ここを開けるかどうかをすごく悩みました。その上でお互いに気にかけて「密」の関係を続けていくことの大切さを思いました。人は来ないけど通学路になっている店舗前を子どもたちが通っている。ある日お母さんたちから「このお店が開いているだけで子どもたちはホッとしている」と言っていたことがあり、ここ「楽菓子屋ひろば」が開いているだけで日常を感じている子どもたちがいることを知りました。活動のきっかけは子どもでしたが現在、その輪は少しずつ広がっています。毎月2回のひろば食堂では年配の方が足を運んでくれるようになりました。また地域の方から支援物資、洋服のリサイクル、手作りの巾着やマスクの提供があります。それから高校生のクリーン活動に混ざって一緒にゴミ拾いをする「も美化隊員」が発足しました。2021年のハロウィンのイベントでは50人ほどが参加してくれました。子どもや親御さんだけでなく高校生ボランティアや地域のお宅が協力してくれ楽しいオリエンテーリングが実

現しました。

今後の展望というほど大きなことではないのですが、少し先の未来を想像します。ある子は「10年後に私は20歳になるからここで同窓会をやろう」またある子は「高校生になればここでバイトさせてもらえる？」と聞いてきたり。私の歳を話題に「あと何十年後は、おばあさんになるんだよね、そのあとお店どうするの!?」「大丈夫だよ！自分、やるから！(笑)」と頼もしい声が聞かれています(笑)。子どもたちの想いは一時かもしれませんが、日々子どもたちとのやりとりは小さな物語となつて続いています。これからもこの場で変わらないカタチで見守り、「居場所」の提供を続けていきたいと思っています。



郡山店

はたらく人生を豊かにする

郡山店はSOCIAL SQUAREの5拠点目、2021年10月にオープンしました。就労移行支援の単独事業所として、働きたいという思いに寄り添いご利用される方々の、のばしたいことや好きなことに取り組めるニーズに合わせた支援をご提供しています。また、多彩で経験豊富なクルーが集まっておりメンバーさんの「やりたいこと」や「なりたい姿」を様々な視点から一緒に考え進んでいく個別支援が強みです。毎週個別面談も行っており日々の活動進捗や目標はもちろん、ざっくばらんな悩相談など様々なコミュニケーションを取っています。カフェのようなおしゃれで落ち着いた空間を活用して、集中して取り組む個人の活動やコーヒーを飲みながらゆったりと会話を楽しむコミュニケーションの時間など、様々な心地のよい時間が流れている事業所です。

上熊本店

十人十色の働き方をデザインする

熊本2号店として2022年2月にOPEN。実践型の就労移行支援事業所であり、熊本西区では初の就労移行支援事業所開設となります。水前寺店で経験を積んだクルーに、作業療法士、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を持つクルーが仲間入りし、メンバーさんをサポートしていきます。1階は、入ってすぐのカウンターが特徴的であり、いつでも「おかえり」とメンバーさんを迎えられるようクルーの思いが込められています。また、2階は窓から外を眺めながら活動できるスペースや、気分転換をしながらそれぞれのペースで活動を行うことができるようになっています。就労に向けてカリキュラムや工賃業務、実習等一人で合うサポートを行っていきます。少しずつですが利用や体験の方が増え、未来に期待を馳せながらも試行錯誤の日々を過ごしています。

いわき店

ここが、はじまりのスクエア

いわき店では毎月第4日曜日に開催されている「洋向台マルシェ」という市内のイベントに出店しています。メンバーさんの制作した雑貨やSOCIAL SQUAREのロゴの入ったTシャツやサコッシュなど、様々な商品を取り揃えています。メンバーさんの接客体験や地域の皆様との交流の機会になればと考えていますので、洋向台マルシェにお越しの際は是非私たちのブースにもお立ち寄りください！



上荒川店

(旧スポーツ店)

ココロ、カラダ、ツナガリを満たす

上荒川店では「はじまりの美術館」さんとのコラボ企画で「気になる！まちなか美術館」というイベントを実施しました。メンバーさんと一緒に「きになる」作品を選んで事業所に飾り、期間中は一般の方も作品を観に来たりして、作品の持つ不思議な魅力を感じられる期間になりました。事業所が普段とはまた違うごちゃまぜな空間になっていて、今後もこういう企画があればぜひ参加していきたいと思っています。



西宮店

きつかけ生まれるプラットフォーム

2021年は地域の方々やお店との繋がりが増えた西宮店。年末には社会福祉協議会が主催しているクリスマス会に招待され、出し物の企画や運営を行いました。コロナ禍でオンライン開催となりましたが、メンバーさん主体で考えたのはクイズ企画。メンバーさんひとりひとりの特技などをクイズの問題にしました。中でも盛り上がりを見せたのはテーブルクロス引き。1度で成功させ、画面越しの歓声が聞こえました。



水前寺店

(旧熊本店)

一人ひとりの人生をデザイン

水前寺店では月に1度、季節の変化を感じながら街ぶらをするプログラムを実施しています。社会資源を活用し、普段なら中々行かない場所や経験などを行い、地元熊本の良さの再発見をし、みんなで楽しさを共有しよう！との提案で始まったプログラムです。移動も貸し切りのバスで行っているため、景色や出来事を共有しリラックスした環境で楽しみながら移動することが出来ます。過去には動物園や熊本城などにみんなで見学に行き、楽しい時間を過ごしました。今後も定期的に実施していく予定です。



編集後記

今回の特集のテーマは「食」。食と言っても食べ物その物ではなく、「あなたは何を食べている？」に焦点を当てそこから「なぜそれを食べている？」に進みます。なぜ?を進んでいくとその人の哲学や想い、社会にまで触れることができ、食を通じてごちゃまぜの世界観に触れることができました。すべての人が共通した「食事」という行為から、みなさんはタブロイドを通じて何を感じましたか？

編集 / 星 和磨

GOCHAMAZE times 2022 春号

発行日 | 2022年4月22日
発行人 | 北山 剛
編集 | 小松 理度 (ヘキレキ舎)、藤木 泰寛
デザイン | 江藤 菜穂子
撮影 | 今泉 俊昭、奥田 峻史
広報 PR | 渡辺 香

企画・構成 | 大森 亮平、星 和磨
取材 | 奥田 峻史、佐藤 竜太
取材・構成 | 田川 美那海、山崎 美波
発行 | 特定非営利活動法人
ソーシャルデザインワークス
印刷 | 株式会社東海共同印刷